

授業科目 (科目ID)	数的知能	担当教員 (実務経験)	岩城 浩司、山口 祐介 有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	6単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	45	時間数	90時間
授業目的	試験に対応した様々な問題を単元ごとに基礎から応用まで学習し、数的知能(数的推理、資料解釈)の得点力を上げる。				
到達目標	各単元の基本解法を習得する。確認テスト及び単元テストの正答率を75%以上にする。 基礎模擬試験における数的知能分野の正答率を60%以上にする。				
テキスト・ 参考図書等	"絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 問題集編 "絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 ドリル編				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	授業の中で「資料解釈」の演習を週3～4回実施します。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	年齢算	年齢問題の基本、年齢不明問題		
	2	年齢算	複数の基準		
	3	売買損益	定価と原価の関係、個数を考慮した売買		
	4	売買損益	個数を考慮した場合(売り上げが数種類ある場合)		
	5	平均	平均と合計、複数グループの平均		
	6	平均	複数グループの平均(人数比)		
	7	一次方程式	「=」の関係、相当算		
	8	連立方程式	比例配分、計算の工夫		
	9	連立方程式	変動前と変動後、変動前と変動後(同数増加)		
	10	連立方程式	過不足算、速さ問題の過不足算		
	11	不定方程式	値の求め方、場合の数		
	12	ニュートン算	ニュートン算の基本、不明な情報が2つの場合		
	13	ニュートン算	不明な情報が3つの場合		
	14	面積(三角形)	三角形の面積、三角形の面積比、テキスト例題		
15	面積(三角形)	三角形の相似比、テキスト例題、練習問題			

履修主題・履修内容	16	面積(三角形)	演習
	17	面積(円・扇形)	円と扇形の面積、テキスト例題、練習問題
	18	面積(円・扇形)	演習
	19	面積(その他)	様々な図形の面積、テキスト例題
	20	資料解釈	指数と構成比
	21	資料解釈	演習問題
	22	資料解釈	増減率
	23	資料解釈	演習問題
	24	資料解釈	その他の資料
	25	資料解釈	問題演習
	26	資料解釈	問題演習
	27	記数法	10進法から?進法への変換、?進法から10進法への変換、 ?進法から?進法への変換
	28	記数法	四則演算、暗号
	29	約数・倍数	最小公倍数、最大公約数、割る数と余り(1)、(2)
	30	約数・倍数	素因数分解と約数の個数、整数の掛け算
	31	約数・倍数	集合
	32	整数	計算式を満たす整数、連続する整数
	33	整数	各桁の操作
	34	魔法陣	$3 \times 3 = 9$ マス、 $4 \times 4 = 16$ マス、魔辺三角形
	35	覆面算・虫食い算	加減の筆算、かけ算の筆算
	36	覆面算・虫食い算	割り算
	37	立体(体積・表面積・展開図)	様々な図形の体積・表面積、演習、テキスト例題
	38	立体(体積・表面積・展開図)	相似な図形の体積比、演習、テキスト例題
	39	立体(体積・表面積・展開図)	展開図と最短距離、演習、テキスト例題
	40	立体(切断・回転体・その他)	立体の切断、演習、テキスト例題
	41	立体(切断・回転体・その他)	回転体、演習、テキスト例題
	42	数列と規則	等差数列の項、等差数列の和、階差数列
	43	数列と規則	集合、計算規則
	44	数列と規則	平面分割、数字配列
	45	その他の数量	最大・最小、時差、順序だてて計算する、表の理解

授業科目 (科目ID)	判断知能	担当教員 (実務経験)	田近 涼、小形 龍志 有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	6単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	45	時間数	90時間
授業目的	この授業では、柔軟な思考力と迅速な判断力を身につけるために、各単元ごとに基本となる考え方・解き方・図表の描き方・演習・解説を繰り返し、公務員試験において得点源の核となることを目的としています。				
到達目標	テキストの例題・練習問題が確実に解けるようになることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 問題集編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 ドリル編				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	1. 講義中の私語、居眠り、スマートフォンなどの操作を行わないこと。 2. 授業及び確認テストの復習を必ず行うこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	授業ガイダンス	公務員試験における判断知能の位置づけ、講義を受ける上での注意事項など2年間で何が必要かを確認する。		
	2	論理1	命題、逆、裏、対偶の関係および三段論法について理解する。		
	3	論理2	「かつ」「または」の分解・合成について理解する。また、命題とベン図の関係についても理解する。		
	4	論理3	練習問題		
	5	論理4	練習問題		
	6	集合・人数1-1	ベン図の解き方について理解する。		
	7	集合・人数1-2	練習問題		
	8	集合・人数1-3	練習問題		
	9	集合・人数2-1	キャロル表の描き方を理解する。また、最大・最小の表し方についても理解する。		
	10	集合・人数2-2	練習問題		
	11	うそつき1	グループ分けでうそつきを導く方法を理解する。		
	12	うそつき2	半分が本当、半分がうそその問題の解き方を理解する。		
	13	うそつき3	犯人探し(番町式)での解き方を理解する。		
	14	うそつき4	練習問題		
15	折り紙1	線対称にマーキングする方法を理解する。			

履修主題・履修内容	16	折り紙2	練習問題
	17	折り紙3	練習問題
	18	対応関係1-1	対応表を描いて判断する方法を理解する。
	19	対応関係1-2	場合分けで判断する方法を理解する。
	20	対応関係1-3	練習問題
	21	対応関係1-4	練習問題
	22	対応関係2-1	対応表を描かないで判断する方法を理解する。
	23	対応関係2-2	練習問題
	24	道順・位相1	最短経路を図を描いて求める方法を理解する。また、Cを用いて求める方法についても理解する。
	25	道順・位相2	樹形図を描いて求める方法を理解する。また、一筆書きの特徴についても理解する。
	26	道順・位相3	練習問題
	27	順序関係1-1	数直線を描いて判断する方法を理解する。
	28	順序関係1-2	練習問題
	29	順序関係1-3	練習問題
	30	順序関係2-1	順位の比較、途中経過から判断する方法を理解する。
	31	順序関係2-2	折り返し、樹形図を描いて判断する方法を理解する。
	32	順序関係2-3	練習問題
	33	展開図1-1	平面から立体を組み立てる方法を理解する。また、正多面体の特徴についても理解する。
	34	展開図1-2	重なる辺、平行な面について理解する。
	35	展開図1-3	練習問題
	36	試合・勝敗1	リーグ戦とトーナメント戦の違い、リーグ戦で図を描いて判断する方法を理解する。
	37	試合・勝敗2	トーナメント戦でトーナメント表を描いて判断する方法を理解する。
	38	試合・勝敗3	練習問題
	39	展開図2-1	サイコロの特徴、サイコロを五面図(位相図)に変換する方法を理解する。
	40	展開図2-2	練習問題
	41	展開図2-3	練習問題
	42	位置・方位1	位置関係、方位の表し方と角度について理解する。また、特徴的な直角三角形についても理解する。
	43	位置・方位2	円形のテーブルまたは四角いテーブルに着席した場合の判断方法について理解する。
	44	位置・方位3	練習問題
	45	位置・方位4	練習問題

授業科目 (科目ID)	判断知能	担当教員 (実務経験)	田近 涼、小形 龍志 有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	6単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	45	時間数	90時間
授業目的	この授業では、柔軟な思考力と迅速な判断力を身につけるために、各單元ごとに基本となる考え方・解き方・図表の描き方・演習・解説を繰り返し、公務員試験において得点源の核となることを目的としています。				
到達目標	テキストの例題・練習問題が確実に解けるようになることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 問題集編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 ドリル編				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	1. 講義中の私語、居眠り、スマートフォンなどの操作を行わないこと。 2. 授業及び確認テストの復習を必ず行うこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	授業ガイダンス 平面図形1	大きな図形に隠れた小さな図形の数え方について理解する。		
	2	平面図形2	断片を組み合わせて図形をつくる方法を理解する。		
	3	平面図形3	練習問題		
	4	平面図形4	練習問題		
	5	暗号1	50音対応、アルファベット対応の見分け方について理解する。		
	6	暗号2	その他の暗号について理解する。		
	7	軌跡1	直線上に図形を転がす方法について理解する。		
	8	軌跡2	円周上に円を転がす方法と回転数について理解する。		
	9	軌跡3	練習問題		
	10	軌跡4	練習問題		
	11	手順1-1	天秤を使った回数を求める方法、1つだけ重さが異なる場合の判断方法について理解する。		
	12	手順1-2	練習問題		
	13	手順2-1	帽子の色の判断、油分け算の図の描き方、ハノイの塔について理解する。		
	14	手順2-2	練習問題		
15	手順2-3	練習問題			

履修主題・履修内容	16	手順2-4	練習問題
	17	空間図形の分割1	着色、串刺し方法について理解する。
	18	空間図形の分割2	1段スライスで立体を切断する方法を理解する。
	19	空間図形の分割3	練習問題
	20	暦・カレンダー1	暦・カレンダーのルール、閏年について理解する。
	21	暦・カレンダー2	「おき」「ごと」について理解する。
	22	多面体・切断・回転1	正多面体の特徴(再確認)、切断面について理解する。
	23	多面体・切断・回転2	回転体について理解する。
	24	多面体・切断・回転3	練習問題
	25	多面体・切断・回転4	練習問題
	26	数量推理1	鳩ノ巣原理、 \times の問題、数量関係について理解する。
	27	数量推理2	練習問題
	28	数量推理3	練習問題
	29	数量推理4	練習問題
	30	数量推理5	練習問題
	31	空間図形の投影1	投影図の見方、積み木の表し方について理解する。
	32	空間図形の投影2	練習問題
	33	空間図形の投影3	練習問題
	34	単元別演習	論理、集合について演習を行う。
	35	単元別演習	うそつき、道順・位相、について演習を行う。
	36	単元別演習	対応関係について演習を行う。
	37	単元別演習	順序関係について演習を行う。
	38	単元別演習	試合・勝敗、展開図について演習を行う。
	39	単元別演習	位置・方位について演習を行う。
	40	単元別演習	暗号、暦・カレンダー、平面図形について演習を行う。
	41	単元別演習	軌跡について演習を行う。
	42	単元別演習	手順について演習を行う。
	43	単元別演習	空間図形の分割について演習を行う。
	44	単元別演習	数量推理について演習を行う。
	45	単元別演習	多面体・切断・回転、空間図形の投影について演習を行う。

授業科目 (科目ID)	模擬演習		担当教員 (実務経験)	岩城 浩司、田近 涼 有 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	模擬試験(基礎編)を計15回ほど実施することで、公務員本試験を想定した時間配分と、各科目の得意・不得意分野を見極める。				
到達目標	1.科目毎の解答時間配分を意識しながら、効率的に正答率を上げていく。 2.正答率について、教養分野45%以上、知能分野65%以上(判断知能70%、数的知能60%)を目標とする。				
テキスト・参考図書等	模擬試験(TAC) 第1回~10回 / 模擬試験(実務教育出版) 第1回~4回 / SPI模擬試験(実務教育出版) 1回				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	小テスト(模擬試験結果)、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	60%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の留意事項	模擬試験は、必ずやり直しを行う。この復習が実力と得点を上げる一番の近道と認識する。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	模擬試験(TAC) 第1回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	2	模擬試験(TAC) 第1回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	3	模擬試験(TAC) 第2回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	4	模擬試験(TAC) 第2回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	5	模擬試験(実務教育出版) 第1回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	6	模擬試験(実務教育出版) 第1回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	7	模擬試験(TAC) 第3回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	8	模擬試験(TAC) 第3回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	9	模擬試験(TAC) 第4回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	10	模擬試験(TAC) 第4回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	11	模擬試験(TAC) 第5回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	12	模擬試験(TAC) 第5回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	13	模擬試験(TAC) 第6回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	14	模擬試験(TAC) 第6回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
15	模擬試験(実務教育出版) 第2回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。			

履修主題・履修内容	16	模擬試験(実務教育出版) 第2回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
	17	模擬試験(TAC) 第7回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。
	18	模擬試験(TAC) 第7回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
	19	模擬試験(TAC) 第8回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。
	20	模擬試験(TAC) 第8回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
	21	模擬試験(TAC) 第9回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。
	22	模擬試験(TAC) 第9回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
	23	模擬試験(実務教育出版) 第3回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。
	24	模擬試験(実務教育出版) 第3回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
	25	SPI模擬試験(実務教育出版)	2コマ連続の授業となる。言語系の試験を30分間、非言語系の試験を40分間行う。
	26	SPI模擬試験(実務教育出版)	全試験終了後、問題の解答と解説を行う。
	27	模擬試験(実務教育出版) 第4回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。
	28	模擬試験(実務教育出版) 第4回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
	29	模擬試験(TAC) 第10回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。
30	模擬試験(TAC) 第10回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。	

2023年度

吉田学園公務員法科専門学校

公務員学科 市町村専攻

授業科目 (科目ID)	基礎学習講座	担当教員 (実務経験)	岩城 浩司、田近 涼 有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	SPI型公務員試験に向けた対策講座です。				
到達目標	SPI型公務員試験の非言語分野(数的処理)における基本的な解法を身につけ、単元テストの正答率を7割以上とする。				
テキスト・ 参考図書等	プリント教材				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	小テスト(単元テスト)、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	80%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	近年、公務員試験でもSPI試験を採用する自治体が増えつつあります。導入の目的は、民間企業を志望する就活生にも受験しやすいためと考えられます。一般的な公務員試験とSPI試験を比較すると、問題そのものは公務員試験より簡単ですが、短時間で大量に解く必要があるため、事前演習が重要になります。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	損益算	原価(仕入れ値)、定価、売価(売り値)、利益の関係性を理解する。 問題演習		
	2	損益算	問題演習		
	3	損益算 料金割引	単元テスト(損益算) 施設の入場や買い物などで、割引される料金や人数を計算する。問題演習		
	4	料金割引	問題演習、単元テスト(料金割引)		
	5	割合と比	各内訳の比率を基に、全体数に対する割合を計算する。 問題演習		
	6	割合と比	問題演習		
	7	割合と比 分割払い	単元テスト(割合と比) 分割払いの1回分の支払額や割合を分数で計算する。問題演習		
	8	分割払い	問題演習、単元テスト(分割払い)		
	9	速度算	ある区間を移動する際の、速さ・時間・距離を計算する。 問題演習		
	10	速度算	問題演習、単元テスト(速度算)		
	11	場合の数	順列と組合せの公式を用いて計算する。 問題演習		
	12	場合の数 集合	単元テスト(場合の数) 集計結果から、特定の項目に該当する人数等を計算する。問題演習		
	13	集合	問題演習、単元テスト(集合)		
	14	推論(順序)	あるグループ内の順序や順位を推理する。 問題演習		
15	推論(順序)	問題演習、単元テスト(順序)			

授業科目 (科目ID)	2次試験対策 I		担当教員 (実務経験)	岩城 浩司、田近 涼 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	就職活動(公務員面接[人物]試験合)について理解し、必要な分析(理解)と情報収集の方法について学びます。 面接(人物)試験についての形態を知り、基本動作(入退室と挨拶)練習や、基本的質問事項への返答準備を行います。				
到達目標	1. 基本動作(入退室、言葉遣い、表情、挨拶)を理解し、基本的な言動を身に付ける。 2. 公務員面接(人物)試験の概要を理解する。 3. 職種研究、自己分析(理解)を開始し、基本的質問事項(志望動機、自己PR)の原稿が作成できる。				
テキスト・ 参考図書等	プリント教材				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	小テスト(基本動作評価)、提出物、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	40%			
	提出物	40%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	1. 公務員面接試験が、就職試験の人物試験であること、筆記(一次)試験との同時実施や筆記(一次)試験合格直後に実施されることを理解し、速やかに面接(人物)試験準備が整うよう、情報収集と自身の振り返り作業を真剣に取り組んでください。 2. 自身の思考整理や各種調査・確認記録などの提出課題について、真摯に取り組み作成提出してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	科目概要	公務員2次面接準備[自己分析(自己理解)、企業(会社)研究、仕事(職種)研究、模擬面接練習等]について		
	2	自己分析	自己分析(自己理解)、長所・短所整理①		
	3	自己分析	自己分析(自己理解)、長所・短所整理②		
	4	職種研究	志望職種の調査、結果まとめ作成①		
	5	職種研究	志望職種の調査、結果まとめ作成②		
	6	職種研究	自己PRの作成①		
	7	職種研究	自己PRの作成②		
	8	職種研究	グループワーク: 自己PRの発表と意見交換		
	9	書類作成	志望動機の作成①		
	10	書類作成	志望動機の作成①		
	11	書類作成	グループワーク: 志望動機の発表と意見交換		
	12	書類作成	基本動作(入退室、挨拶)について①		
	13	面接対策	基本動作(入退室、挨拶)について②		
	14	面接対策	基本動作(入退室、挨拶)と試験形態について: 個人面接、集団面接、集団討論		
15	振り返り	「2次試験対策 I」まとめと振り返り			

授業科目 (科目ID)	2次試験対策Ⅱ		担当教員 (実務経験)	岩城 浩司、田近 涼 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	「2次試験対策Ⅰ」に続き、基本動作(入退室と挨拶)を身に付け、基本的質問事項(志望動機、自己PR)を完成(本番仕様)させます。自身の経験を振り返り、他者からの感想や意見を聞くことにより、新たな気づきを参考に、自身の面接(人物)試験準備を完成させる。				
到達目標	1. 面接(人物)試験で表現する、「志望動機」「自己PR」の完成と発表(本番仕様)。 2. 印象が良く、受験生らしい明るく爽やかな基本動作(入退室、言葉遣い、表情、挨拶)ができる。 3. 受験をする試験・仕事を整理し、想定される質問項目の返答内容について構築ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	小テスト(模擬面接評価)、提出物、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	60%			
	提出物	20%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	1. 他者の言動(意見や考え方、行動)を参考に、つねに自分自身が行っている対策や準備の、見直しと改善の意識をもって取り組んでください。 2. 本試験での自分がイメージできるまで、繰り返し取り組むことが大切です。 3. 自身の思考整理や各種調査・確認記録などの提出課題について、真摯に取り組む作成提出してください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	書類作成	提出書類モデル作成①		
	2	書類作成	提出書類モデル作成②		
	3	書類作成	その他(自己PR、志望動機以外)質問項目の返答準備①		
	4	書類作成	その他(自己PR、志望動機以外)質問項目の返答準備②		
	5	面接対策	個人面接指導1-① 基本動作(入退室と挨拶)確認		
	6	面接対策	個人面接指導1-② 基本動作(入退室と挨拶)確認		
	7	面接対策	個人面接指導2-① 基本動作と質疑応答		
	8	面接対策	個人面接指導2-② 基本動作と質疑応答		
	9	面接対策	個人面接指導2-③ 基本動作と質疑応答		
	10	面接対策	個人面接指導3-① 模擬面接		
	11	面接対策	個人面接指導3-② 模擬面接		
	12	面接対策	個人面接指導3-③ 模擬面接		
	13	面接対策	個人面接指導3-④ 模擬面接		
	14	面接対策	個人面接指導3-⑤ 模擬面接		
15	振り返り	「2次試験対策Ⅱ」まとめと振り返り			